

[ニカラグア]

平和の尊さを 共に考えよう

ヒロシマ・ナガサキの悲劇を伝える原爆紹介展。
青年海外協力隊員によって各国で開催されている。

Close Up!

ジャイカの
あしあと



「ヒロシマにこんな悲劇があったんだ」。中米ニカラグアの若者がつぶやく。長い内戦を経験した同国で今夏、ヒロシマ・ナガサキの歴史を伝える「原爆紹介展」が開催された。あまりの衝撃を受けた来場者は「世界中の人々が手をつなぎ、核や戦争のない未来をつくっていききたい」という思いを込めて千羽鶴を折り、原爆が投下された広島平和記念公園に贈った。原爆展を開いたのは、ニカラグアで環境教育を行う青年海外協力隊の川添徳子さん。「日本について知っていることは？」彼女の問い掛けに「ヒロシマ」「ナガサキ」の声が上がったものの、現地の人々は原爆の悲惨さまで知らなかった。また配属先の教員養成校の教員から「子どもたちが原爆について学ぶ機会をつくれなにか」と相談を受け、彼らと協力して準備した。養成校など全5カ所で行った。パネル展示やビデオ上映を行い、2歳で被爆し12歳の時に白血病で亡くなった佐々木禎子^{ささき}を紹介するポスターの前では多くの人が足を止め、涙する姿もあった。また、原爆のことを「知る」だけ

ではなく、平和の尊さについて、考えてほしいとワークショップも開催。参加者は地球上の問題について話し合い世界平和のために自分に何ができるか各自考えを発表していった。「過去に起きたすべての戦争と核使用を反省し、今後は反対の意思を明確に示す」「戦争がもたらす悲劇や日本の経験を子どもたちに伝えていきたい」などの意見のほか、「短期間で復興を遂げた日本の姿から、私たちにも可能性がある」という勇気をもらった」と言う人も。延べ500人を上回る来場者に、原爆に対するニカラグア人の関心の高さがうかがえた。実は、原爆展を開催しているのは川添さんだけではない。広島県出身の隊員が2年前にニカラグアで行ったのを機に、各地の隊員が受け継ぎ、自主的な活動として広がっている。これまでの開催国はケニア、フィリピン、パキスタン、バヌアツなど22カ国以上。原爆展は内戦や貧困にあえぐ途上国の人々の心に平和の尊さを刻んでいる。

